鹿児島市立桜丘中学校
令和５年５月２３日

第２号

「ブロークン・ウィンドウズ理論（割れ窓理論）」

校長　上久保大介

1970年以降、ニューヨークは犯罪が急増し**「危険な街」**と呼ばれていました。特に地下鉄では**凶悪犯罪が多発**し、利用者はほとんどありませんでした。この状況を打開しようとニューヨークが始めたのは、**「地下鉄の落書き消し」**でした。地下鉄職員たちは「犯罪の取り締まりが先だろう」と猛反発しましたが、当時の局長はこれを断行し、**6000もの車両の落書き消し**が始まりました。初めのうちは効果がありませんでしたが、作業を終える**５年後には凶悪犯罪が減少**していました。

この方法は心理学者ジンバルドー教授の提唱した**理論**がもとになっています。

ジンバルドー教授は次のような実験を行いました。

平和な住宅街にナンバープレートを外し、ボンネットを開けたままの乗用車を１週間放置しても、何も起こらなかった。ところが、**フロントガラスを割った車**を放置すると、すぐに他のガラスが割られ、多くの部品が盗まれ、ついには**完全に破壊され**てしまった。

これは、つまりこういうことです。

１　建物の窓が割れていると、そこには**誰も注意を払っていない**と人は考えるようになる。 ２　ゴミの投棄、落書きなど**の軽犯罪が起こる**ようになる。 ３　住民の**モラルが低下**し、**協力が失われ環境が悪化**する。 ４　凶悪犯罪が増える。

ご存じの方も多いと思いますが、これが**「ブロークン・ウィンドウズ理論」**です。

小さな異常や変化を見逃していると、いずれは修正のできないような大きな事態に発展してしまうという内容です。

これは学校も同じです。最近の傾向として、校則の撤廃や見直し、自由化が話題になっていますが、**成長途中の中学生にとって、しつけや決まりごと、ルールの徹底はたいへん重要です。**例えば、全てを自由にしてしまうと、金髪やパーマ、化粧やピアス、服装の乱れなどから、いじめ、万引き、夜間徘徊、スマホの不適切使用などに発展する恐れがあります。当然、学力も落ち、望む進路に進めない可能性が増え**子供の将来を奪ってしまう**ことになりかねません。ですから、**学校には決まりがある**のです。**ご家庭にはどのような決まりが？**

私たち大人は小さなことを見逃さず、**あるべき姿に正す努力をしてあげることが「愛すること」なのではないか**と思いますが、いかがでしょう。